

平成26年度全国学力・学習状況調査結果から



【小学校】	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答率(%)	全国比較	平均正答率(%)	全国比較	平均正答率(%)	全国比較	平均正答率(%)	全国比較
浜松市	71.0	-1.9	58.9	+3.4	79.2	+1.1	59.2	+1.0
静岡県	72.8	-0.1	58.4	+2.9	79.4	+1.3	58.5	+0.3
全国	72.9		55.5		78.1		58.2	

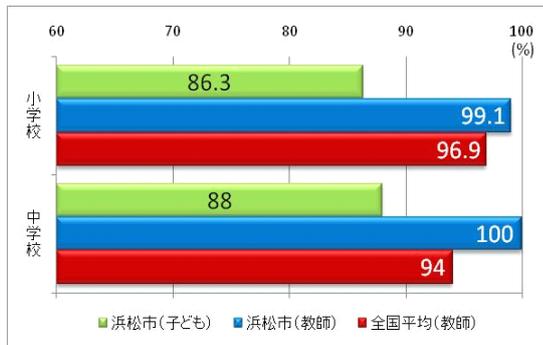
平成26年度全国学力・学習状況調査における浜松市の小学生の結果は上記のとおりでした。昨年度の課題であった無解答率が大きく減り、全てにおいて昨年度の結果を上回りました。そして、国語A以外は全国平均を上回る結果でもありました。

この報告書は、調査結果から見てきた浜松市の子どもの学力や生活習慣の傾向と課題、また、それに対して各学校で取り組んでほしいことや授業改善のアイデアについて、以下の項目ごとにまとめてあります。

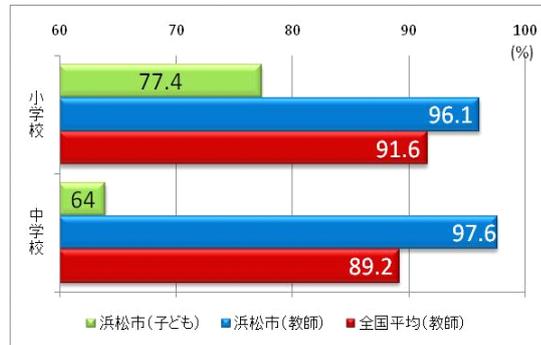
- 質問紙の傾向と改善の視点
- 国語の傾向と授業改善
- 算数の傾向と授業改善

教師の取り組みと子どもの意識の差を問う

Q 授業のはじめにめあてが示されていましたか。(めあてを示す活動を計画的に取り入れましたか。)



Q 授業の最後に学習を振り返る活動をよく行っていましたか。(振り返る活動を計画的に取り入れましたか。)



浜松市の教師は、授業のはじめにめあてを示すことや振り返る活動を、全国と比較しても高い割合で計画的に取り入れています。しかし、子どもに同様の質問をした結果、教師の取り組みと子どもの意識には大きな差が見られます。



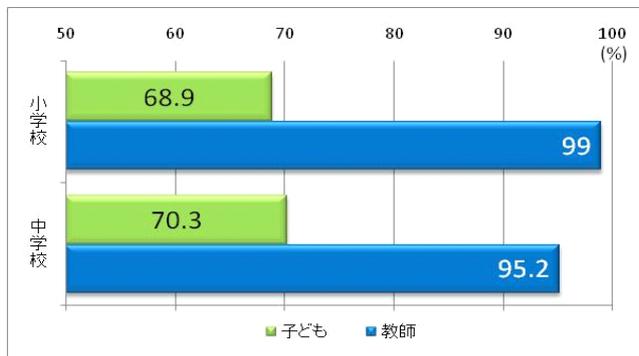
子ども自身が「何を学ぶのか」がはっきりと分かり、「どう学ぶのか」という見通しが持てるめあての提示を工夫しましょう。また、「この時間にどんなことが分かったのか」、「何ができるようになったのか」が実感できる振り返りを工夫しましょう。

プロ教師として
指導の質を磨く

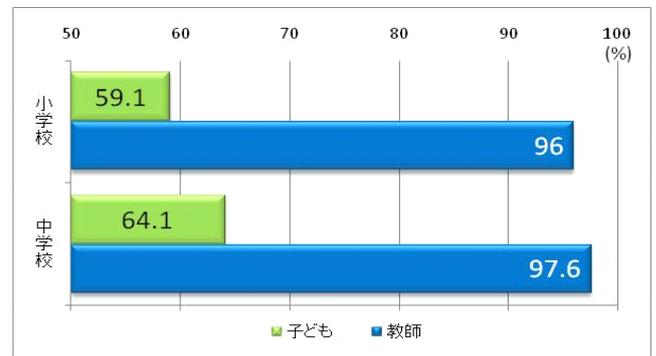
子どもと教師の意識には差があります。私たちは、目的やねらいを明確にして指導する必要があります。

教師の指導と子どもの意識の差を問う

Q 学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができたと思いますか。(思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。)



Q 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。(分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。)



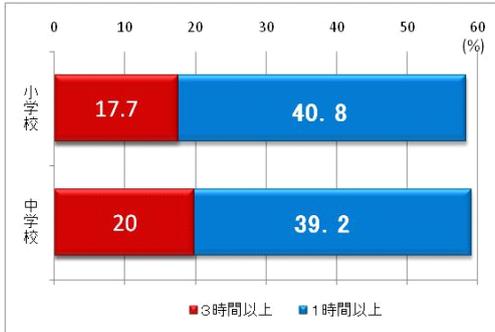
話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたりすることや、自分の考えを他の人に説明したり記述したりすることに関して、教師の指導と子どもの意識との間には約30%前後の差があります。

話し合う活動をするのが目的ではなく、意見のやりとりを通して考えが深まったり、新たに気付いたりする活動となっているかを大事にしましょう。そして、どう伝えると分かりやすいかというポイントを、発達段階に応じて指導しましょう。

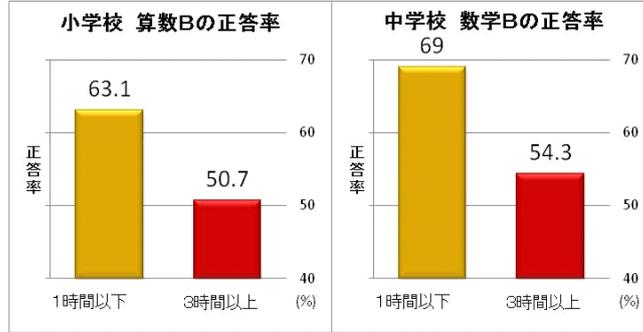


子どもの生活習慣を問う

Q 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。（3時間以上する、1時間以上すると答えた児童生徒の割合）



Q 「テレビゲームをする時間」と「算数(数学)Bの児童生徒の正答率」との関係



浜松の子どもは、「自分には、よいところがある」（小学生：81.4%、中学生：74.0%）「学校に行くのは楽しい」（小学生：89.6%、中学生：83.8%）と自分自身や学校を肯定的に捉えています。「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の問いでは、1時間以上する子どもの割合は約6割でした。テレビゲームをする時間と算数（数学）Bの正答率との関係は、ゲームをする時間が長いほど正答率が低くなる傾向が見られます。他の科目も同様の傾向です。

子どもの家での過ごし方や、テレビゲームなどの利用についての約束事（ルール）を確認しましょう。学校と家庭が協力をして、子どもにとって望ましい時間の使い方を一緒に考えていきましょう。

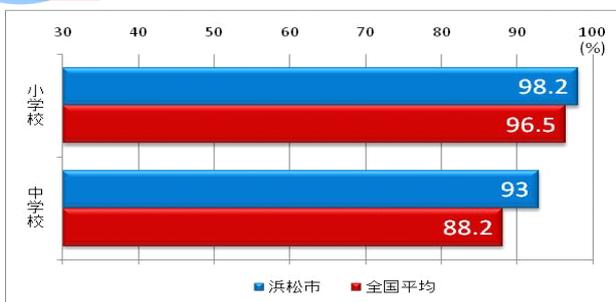


学校と家庭との 連携の質を問う

学校と家庭と力を合わせて、子どもの成長を保障していきましょう。

子どもの学習習慣を問う

Q 家で、学校の宿題をしていますか。



Q 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



「家で、学校の宿題をする」子どもは、昨年度同様、非常に高い割合にあります。一方で、「家で、自分で計画を立てて勉強をする」子どもは、全国平均と比べても決して高いものではありません。

家庭学習の習慣が身に付いているのは、家庭や学校の見届けがされていることの表れです。ドリル等の反復練習だけでなく、各校で作成している「家庭学習の手引き」を活用して、予習や復習など自主的な学習のやり方が身に付くよう、家庭での学びを充実させましょう。日々の学習の中で、子どもの主体性を育む取り組みを、学校と家庭が協力して進めていきましょう。

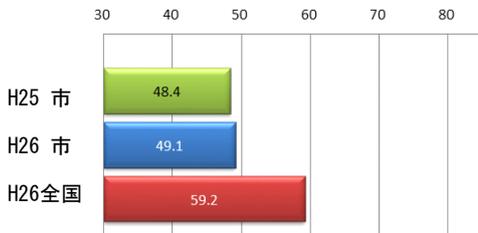


質問紙調査から見てきたこと

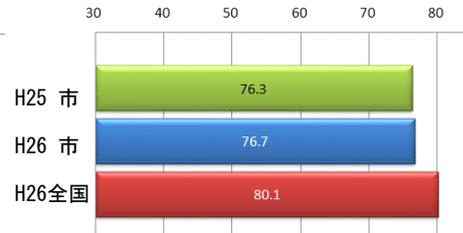
結果から学ぶ 結果を生かす

国語の授業を分ける・楽しい授業にするために、実生活に近い場面で、目的を持たせて言語活動に取り組みませましよう。その上で、言語の能力を活用させ、それを使うよさを実感させましよう。

Q 国語の勉強は好きですか。
(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



Q 国語の授業の内容はよく分かりますか。
(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



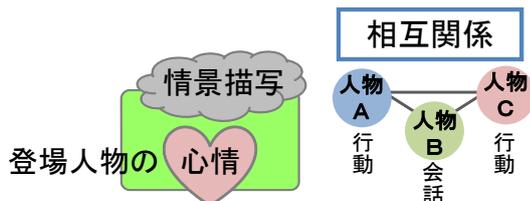
本市の国語に関する2つの回答の割合は、昨年度よりわずかに上昇しているものの、依然として全国を下回っている。

「国語がどうして好きではないのか」、「国語の何が分からないのか」をつかみ、授業改善の方向性を探ることが必要です。「魅力的な課題を設定する」と「付けたい力を明確にする」ことで、児童に「できた」、「分かった」という実感を持たせることが改善の鍵となるでしょう。

良好だと考えられること

基礎的な読む力は、全国の平均正答率を上回っている。

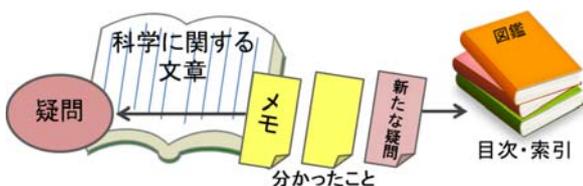
登場人物について心情を情景描写で表したり、相互関係を理解したりすることができた。



一連の課題解決的な活動の中で、思考・判断することができる。

科学に関する文章について調べた付箋のメモを基に、始めに持った疑問を推測できた。

また、新たな疑問について調べるために、目次や索引を使うことができた。



課題だと考えられること

言語についての知識・理解・技能を測る問題は、全国の平均正答率を下回っている。

漢字の読み（「街灯」、「勢い」）、漢字の書き（「祝う」、「予防」）に課題があった。

文章の中で正しく使われている故事成語（「五十歩百歩」など）を選択できなかった。

→【授業改善例1へ】

条件を基に複数のものを関係付けて考える問題は、全国の正答率を上回るものの依然として課題である。

討論会の発言に対して質問や意見を述べる際、発表者の言葉を適切に引用するという条件に従って書くことができなかった。

同様に、2つの詩を比較して自分の考えを書く問題では、「キーワードを使って書く」ことや「共通点や相違点について書く」という条件に従って書くことができなかった。

記述の【条件】

- ・引用して書く
- ・キーワードを使って書く
- ・共通点、相違点について書く

知識技能

→【授業改善例2へ】

授業改善例 1

言語についての知識・理解・技能を身に付ける方法を工夫する

指導のポイント

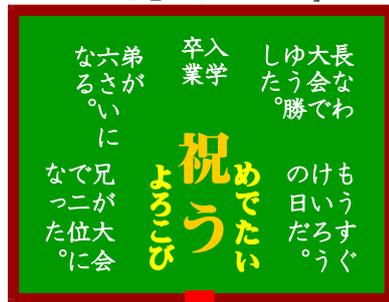
- 言語についての知識や技能を適切に活用させ、それらを使うよさを実感させる。

指導例 A

反復練習のみ → 意味を実感する学習へ



【発問】「どんなときにおめでたいと思いましたか？」



短文を作って練習

「弟が六さいになるので、みんなで祝う。」

指導例 B

学習した「ことわざ」、「慣用句」、「故事成語」を日常生活の場面で使う

【学習指導要領解説】第3学年及び第4学年

■伝統的な言語文化に関する事項 (p68)

～言語生活を豊かにするために、これらの言葉の意味を知り、実際の言語生活で用いるようにさせることが大切である。



※教科書以外に辞典なども使い、ブックにまとめる。ブックは日常で確実に使う。

子どもが使う

- 日記や書き取り練習の中で
- 行事の振り返り文の中で

教師が使う

- 朝の会等の話の中で
- 他教科等の授業の中で

鬼ごっこで5回鬼になった子と6回の子が言い争っていたけれど、1回も鬼にならなかった子からすれば、「五十歩百歩」ですね。



授業改善例 2

学んだ知識や技能を条件に入れ、確実に活用させる

指導のポイント

- 細やかな条件を基に思考させることが大切である。その条件は、知識や技能を使い、複数の資料を関係付けるものにとすると効果的である。

指導例 5年 おすすめの詩を紹介しよう

「おすすめ」をただ選ばせるのではなく、条件を基に選ばせましょう。

導入
おすすめ
の詩を
紹介しよう
展開
発展

- 「おすすめ」の詩の推薦カードの課題設定と学習活動の見直し
- 既習教材「われは草なり」の振り返り

【B「表現の仕方」【既習の確認】リズムと反復】

- 「詩の楽しみ方を見つけよう」(6編の詩)を読み、AとBをつかむ。
- 複数の詩集から気に入った詩を選び、「内容のよさ」「表現の仕方」から根拠を考え、カードにメモする。
- メモを基に推薦の文章をまとめる。

【A「内容のよさ」
雰囲気、作者の思い、自分の経験 etc...】

【B「表現の仕方」
反復、擬声語、比喩、リズムetc...】

【メモを書く条件】「なぜおすすめなのか」を「A内容のよさ」と「B表現の仕方」から考える。

【話し合いの条件】共通点や相違点を「A内容のよさ」と「B表現の仕方」から考える。

知識や技能を活動の中で確実に習得させる。

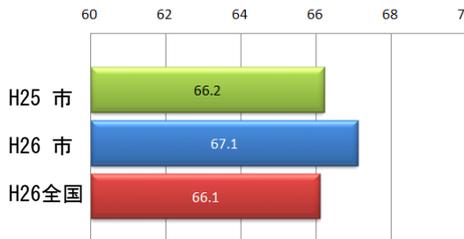
活用

その知識や技能を条件に入れて、思考・判断させる。



質問紙調査から見えてきたこと

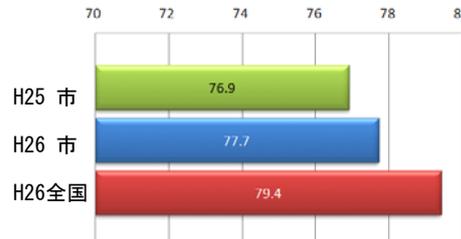
Q 算数の勉強は好きですか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



「算数が好き」という子どもが全国と比べて増え、昨年度よりも上回っている。ただし、依然として7割を切っている。

解決できればよいのではなく、よりよい考えを求める姿や、学ぶ楽しさ、日常に活用できるよさを実感させることに課題があります。

Q 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



問題を解く際、「もっと簡単な方法を考える」ことを嫌う傾向が、昨年度と同様に見られ、今年度も全国より下回っている。

結果から学ぶ 結果を生かす

分かる・楽しい算数の授業にするために、指導と評価の一体化を進めることと、算数を学ぶ意欲を高め、学ぶ意義や価値、活用できるよさを実感する授業実践をしていきましょう。

良好だと考えられること

基本的な計算力が身に付いている。

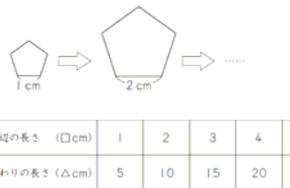
小数、分数の計算をはじめ、四則の混合した式の計算の正答率が高い結果であった。

$$100 - 20 \times 4$$



二つの数量の関係を、式や図を用いて表現できる。

□や△などを用いて、二つの数量の関係を式 $\square \times 5 = \triangle$ にする正答率が高い結果であった。



記述問題を含め、どの設問に対しても積極的に取り組み、無解答率も減少した。

A・B共に全国平均正答率を上回り、無解答率も全ての設問で減少した。

質問紙の中で、「書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」が全国を大きく上回った。

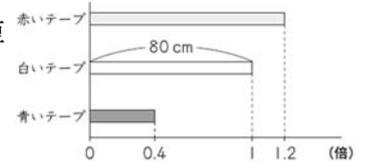
記述式問題にも、最後まで頑張るぞ!



課題だと考えられること

割合が1より小さい場合の比較に課題がある。

基準の長さより短い長さを求めることに課題がある。80×0.4を除法や減法としてしまう。

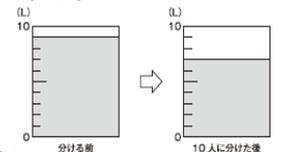


→【授業改善例1へ】



示された条件を基に情報を整理し、比較する対象を明確にし、分かりやすく表現して記述することに課題がある。

「10人分で2Lのスープを分けた。この分け方で、残りの30人にスープを分けられるか?」



✗ 10人分のスープの量は2Lで、30人に必要なスープの量は6Lで分けることはできるが余る。



○ 7Lのスープとの比較を加えて書けるといいね。



→【授業改善例2へ】

授業改善例 1

系統性を意識した授業構想

指導のポイント 全ての学年で、割合の素地的内容や意味について、系統性を意識して丁寧に扱う。



- ・基準量とその倍（幾つ分）に当たる大きさを表したり、比較する量を基準量の幾つ分であるかを見付けたりする活動を低学年から意図的、継続的に行うようにする。

指導例

- ・各学年において、**基準量**、**比較量**、**割合**の関係の理解を深める授業を行う。

割合の内容は、多くの単元・内容と関連があります！

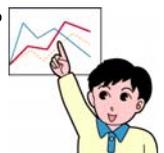
<p>第1学年「くらべた」 例「鉛筆の長さは、積み木の何個分の長さですか。」</p> <p>◎基準の大きさを幾つ分かで表す。</p>	<p>第2学年「かけ算九九づくり」 例「積み木全部の数は、3個の5倍です。全部の数はいくつですか。」</p> <p>◎「～の～倍」で全体をとらえる。</p>	<p>第3学年「わり算」 例「赤テープ12cm、青テープ6cmです。赤テープの長さは、青テープの長さの何倍ですか。」</p> <p>◎基準量と比較量から倍を求める。</p>	<p>【その他の関連する単元・内容】</p> <p>2年「1を分けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○折り紙などを折る活動を通して、$1/2$、$1/3$などの意味を知る。 <p>3年「表と棒グラフ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グラフの読み方に関連して、表の見方以外にも、AはBの2倍など、割合の見方にもふれるとよい。 <p>5年「単位量あたりの大きさ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解する。 <p>5年「割合」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○整数や小数の他に、百分率、歩合といった割合の表し方を理解する。 <p>5年「帯グラフと円グラフ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○帯グラフや円グラフは全体量を1とみたときの各部分の割合を表すことができることを理解する。
<p>第4学年「小数と整数のかけ算、わり算」 例「6年生が走る距離150m、4年生の走る距離100mです。6年生が走る距離は4年生が走る距離の何倍ですか。一倍を表すのに小数を用いる。」</p> <p>◎基準量と比較量から倍を求める。</p>	<p>第5学年「小数のかけ算」 例「1mの値段が300円のリボンがあります。このリボン0.6mの代金は、何円ですか。」</p> <p>◎基準量と割合から比較量を求める。</p>	<p>第5学年「小数のわり算」 例「あるペンキをうすめて、1.4倍の量にして使います。うすめたときの量を3.5Lにするには、もとのペンキの量を何Lにすればよいですか。」</p> <p>◎比較量と割合から基準量を求める。</p>	

授業改善例 2

情報を整理し、比較する対象を明確にして、筋道立てて表現する授業

指導のポイント 答えの根拠を、相手を意識して分かりやすく記述する。

- ・示された条件を基に情報を整理し、比較する対象を明確にして、分類・整理し、筋道立てて考え、友達に説明する場面を設定する。その際、よりよい考え方や表現ができるように、記述に重点を置いた指導をする。



指導例

- ・情報過多や不足の問題、図や表から情報を読み取る問題などを扱い、記述に重点を置いた授業を取り入れる。
- ・図形の学習では、構成要素を基に、対象を明確にして説明したり記述したりする。

第2学年「三角形と四角形」

次の図形をどのようになかま分けをしたか？

① 三角形 (a) と ② 四角形 (u) に分ける。

①の図形は3つに当てはまる形を考えてみよう。

それなら、(a)といの形だね。

次に、かどに直角がある形を考えてみよう。

それなら、(i)と(u)だよ。

分かったよ。どちらにもあてはまるのは、(i)だけだね。

H25授業アイデア例P16参照

第4学年「面積」

どちらの図形の面積がどれほど大きい、か考えよう

①の図形は正方形なので、 $5 \times 5 = 25$ となり、面積は、 25cm^2 です。

②の図形を左の図のよう、①と②に分けて考えます。

① $4 \times 4 = 16$
② $2 \times 4 = 8$
だから、①と②を合わせると、 $16 + 8 = 24$ となり、面積は、 24cm^2 です。

よって、①の図形の面積は 25cm^2 、②の図形の面積は 24cm^2 となり、 $25 - 24 = 1$ で、①の図形の面積が②の図形の面積より 1cm^2 大きい。

数量の大小を判断した根拠を説明する際には、比較する対象を明確にして説明し、記述でも伝えられることが大切です。